寄てうろうの人の者ども是おかくせた志ども成て
陸と入れ意を法ん又て城中より再
助右衛門是をうけて後の援兵地ばくうと突
て出て内外より敵を挟をと為ども城
中の兵大ふいなんて敵の雲をはらひ北ふ
る勢をもつて城戸を開き寄て出る前後三面敵
北能谷右衛門北條孫助金子与惣兵衛勘
左衛門はりうこと寄てこれる推後て可兄
を為西三郎右衛門はこれをめとこれを付敵中
へ寄ている小川路をかしを回りためふ対是三田

第九八大力の者者ハ年拾六歳と名のり敵之
孫寄伏打をり長くしの敵ひしらたしを役を陣屋
ハて打ちれ少しのふぶをうと体をこれをうて
第九の中間をり弟ハて有ハ引付引近く敵手槍
し前屋の敵ふ捧を出辞易して人中を前と
野ら村主ハ大高俱揚け前後の敵ふ寄りかをま
れて生んを只ハふくけり迎し近れ処をや
をけやうふ井死して要をを孫の眉間ふ当よ
死ねやくと眼をいらうし四方を眼白んて八方へ
地ら古幸を御しめ力ふしられい林野屋内か